

2022 年度(令和 4 年度)学校評価自己評価表

培遠中学校区	校番59	福山市立日吉台小学校
最終更新日	2022年(令和4年)10月14日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見力、論理的思考力、コミュニケーション力、実践力
<ul style="list-style-type: none"> <li>リモート授業という新しい形態にも取り組み、先生方も大きな波に追われていると思う。苦しいことも多々あると思うが、全ては子ども達のために頑張してほしい。</li> <li>ウィズコロナに向けたスタートだと思いたい。</li> <li>地域とのつながりを大切にする子ども達の成長を楽しみに、これからも連携、協力をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ活動が制限された中でも学びに向かう意欲が継続している。</li> <li>自分の役割を自覚し、主体的に動く児童生徒が増えている。</li> <li>中学校における長期欠席の生徒は全体の4.3%である。(昨年度 4.6%) ※全国平均 4.1%</li> <li>中学校では減少はしているが、一部の生徒で、SNSのトラブルが繰り返し起きている。</li> </ul>	めざす子ども像 (義務教育終了時の姿)	自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる子ども
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが主体的に考え判断し行動する力を育てる</li> <li>自己肯定感を高め、他者を慮る姿勢を育てる</li> <li>心豊かにたくましく生きる力を育てる</li> </ul>

III 自校

ミッション	社会の一員としての自覚を持ち、夢に向かって挑戦する、自律した子どもを育成する。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見力	論理的思考力	コミュニケーション能力	実践力	
学校教育目標	自ら気づき、考え、判断して行動する子どもの育成	めざす子ども像	低学年	「不思議だな」「何故かな」を見つけることができる。	事柄や時間の順序を整理しながら考えることができる。	自分の思いや考えを相手に伝えることができる。	自分がすることを最後までやり抜くことができる。
現状	<p>&lt;児童&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目的意識を持って異学年活動、委員会・係活動を行い、自身の行動を振り返り達成感を味わう児童が増えてきた。</li> <li>「目標や努力することを決めて取り組んでいる」89.6%、「学校・学級で自分の役割を果たしている」94.1%。</li> <li>長期欠席児童は7名である。</li> </ul> <p>&lt;授業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自由進度学習、計画的な宿題の提示、タブレット教材の活用など、多様な学び方により、意欲的に学び合う姿が増えてきた。「授業がよく分かる」91.8%、「自分で考えた方法で学んでいる」88.5%、「もっと知りたい・学びたいと思うことがある」85.9%。</li> <li>読む・書く、表現する力が定着しておらず、教科学力の個人差が大きい。</li> <li>付ける力の共有、適切な評価による指導の改善により、読む・書く力の定着に向けて、言語活動を通じた学びの充実が必要である。</li> </ul>		中学年	自ら問いを見つけ、既習内容や方法で解決することができる。	因果関係を整理し、筋道を立てながら考えることができる。	自分の考えと相手の考えを比べながら伝え合うことができる。	自分がすることを考えて、目標を持って最後までやり抜くことができる。
			高学年	自ら問いを見つけ、見通しを持って調べたり、考えたりしながら、解決することができる。	因果関係を整理し、筋道を立てたり、根拠を明確にしたりしながら考えることができる。	多様な考えを受け入れながら、自分の考えを伝えることができる。	自分の役割を自覚し、役に立つ喜びを感じながら行動することができる。
		研究	テーマ	学ぶ楽しさを実感しながら、主体的に学びに向かい、力を育む授業づくり ～付ける力の共有、知的好奇心を高める言語活動を通して～			
			内容等	計画的な言語活動、探究的な学び等についての理論研究・単元づくり 授業研究・協議			
		めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが、「もっとやりたい」「できた」「わかった」と実感する授業</li> <li>付ける力を子ども達と共有し、力が付いたと実感する授業</li> <li>子どもが対話したり、解決方法を自分で選択したりする授業</li> </ul>				

福山市立日吉台小学校

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	70%以上評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	70%以上評価	達成評価	総合評価
1	主体的・対話的で深い学びにより、自ら学ぼうとする意欲を育み、力を付ける。	★	新規	<ul style="list-style-type: none"> <li>読む力、書く力の定着を図るとともに、21世紀型スキル&amp;倫理観型を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>付ける力を児童と共有し、計画的に言語活動を行う。</li> <li>自分のペースで取り組むことができる必然性のある繰り返し学習を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「難しい問題でもあきらめずにやってみようと思う」80%以上</li> <li>学期末確認テスト 準学力検査 国語・算数80点以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□「難しい問題でもあきらめずにやってみようと思う」91.0%</li> <li>□学期末確認テスト 国語75.6点 算数75.8点</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的意識を持たせて自分の考えを書く活動を授業の中に位置付ける。</li> <li>教育課程外でも「読む・書く」ことの質と量を確保する活動を行う。</li> <li>書き方スキルの提示など個別支援を充実させる。また、そのための教員研修を行う。</li> </ul>				
				見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な学び方により、自ら学ぼうとする意欲を育む授業づくりを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットドリルなど多様な方法で学習を行う。</li> <li>探究的な展開になるような単元づくりを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業が分かる」「もっと知りたい、学びたい」80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□「授業が分かる」90.7%</li> <li>□「もっと知りたい、学びたい」85.5%</li> </ul>	3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>必然性のある調べ学習、学び合いができるよう、一斉学習、グループ活動、自由進度学習など多様な学び方で学習展開をする。</li> </ul>			
3	自らに自信を持つとともに、相手を思いやる心を育成する。	★	見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手、目的意識を持ち、自分の役割を自覚しながら、協働してやり抜く力を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動目標を立て、実施後に達成状況を確認する振り返りを行う。</li> <li>自主的な係活動、委員会活動を促進する。</li> <li>児童が企画運営する異学年活動、学習発表の場づくりを行う。</li> <li>挨拶や優しい言葉遣いを呼びかける児童発の取組を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学級や委員会での自分の役割を果たしている」85%以上</li> <li>「努力すれば自分もたいいのはできると思う」85%以上</li> <li>「自分から挨拶をしている」85%以上</li> <li>「くん・さんを付けて呼んでいる」75%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□「学級や委員会での自分の役割を果たしている」91.4%</li> <li>□「努力すれば自分もたいいのはできると思う」91.7%</li> <li>□「自分から挨拶をしている」85.9%</li> <li>□「くん・さんを付けて呼んでいる」87.2%</li> </ul>	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動目標に対する振り返りを継続する。</li> <li>係活動の内容を交流したり、委員会活動の取組を発信したりする場を設ける。</li> <li>挨拶に関する児童発の取組を随時行い、結果を全校に還元する。</li> <li>異学年活動をきっかけとして、休憩時間を使って月に1回以上異学年遊びを行う。</li> </ul>				

3	自らの生活を律するたくましい心と体を育成する。	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>体を動かすことの楽しさに気づき、自ら体力づくりに取り組む態度を育む。</li> <li>学級、学年、異学年など多様な集団で運動に親しむ活動を工夫する。</li> <li>体育の授業の始めに、運動量を確保する運動遊びを取り入れる。</li> <li>サーキット運動を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「運動やスポーツをすることが好き」80%以上</li> <li>「体育の授業は楽しい」80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□「運動やスポーツをすることが好き」 88.6%</li> <li>□「体育の授業は楽しい」 93.1%</li> <li>・週1回のロングロング昼休憩、運動量を確保する体育授業が効果的であった。</li> </ul>	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>元気委員会による遊び道具の貸し出し、レクを月1回以上行う。</li> <li>ドッジリンピック等の全校児童参加できるイベントを開催する。</li> <li>リズムジャンプ、縄跳びなどで運動量を確保する。</li> </ul>				
		継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣を自分でマネジメントしようとする態度を育む。</li> <li>家庭と連携し、自身の生活習慣を振り返る週間、自己目標を立てて取り組むアウトメディア週間を学期毎に実施する。</li> <li>出前授業、掲示、放送など食への興味関心を高める取組を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分で寝る時刻、起きる時刻を決めて守っている」80%以上</li> <li>「テレビ、ゲームなどの時間を決めて守っている」80%以上</li> <li>「自分で決められた量の給食を食べきっている」90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□「自分で寝る時刻、起きる時刻を決めて守っている」77.2%</li> <li>□「テレビ、ゲームなどの時間を決めて守っている」76.9%</li> <li>□「自分で決められた量の給食を食べきっている」90.3%</li> <li>・スマホ、インターネットの安全な使い方教室、おやつのお食方教室を行った。</li> <li>・生活習慣の乱れが固定化している。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>アウトメディアチャレンジ週間や生活振り返り週間を行うことで、自らの生活習慣を見つめ直し改善できるように促す。</li> <li>企業の出前講座を利用するなど、食への興味関心を高める取組を継続する。</li> </ul>				
4	教職員がやりがいと充実感を持ち、元気に働くことができる職場環境を作る。	★ 継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に学校運営に参画したり、自ら計画を立てて授業改善に取り組んだりする。</li> <li>事前に課題、方向性を確認し、担当者に方法を任せる。</li> <li>各自が自己研修計画を作成し、授業提案を行う。</li> <li>環境整備、教材教具の充実に向け、適切な予算執行を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「仕事に意義ややり画を感じている」90%以上</li> <li>「本音を気兼ねなく発言でき、個性が認められている」という実感がある」90%以上</li> <li>「授業づくりを行う時間が確保されている」90%以上</li> <li>時間外在校時間月45時間以内、年360時間以内の職員100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□「仕事に意義ややり画を感じている」100%</li> <li>□「本音を気兼ねなく発言でき、個性が認められている」という実感がある」85.7%</li> <li>□「授業づくりを行う時間が確保されている」85.7%</li> <li>□時間外在校時間月45時間以内の職員100%</li> <li>・学級経営案、自己研修計画に基づき、授業づくりを実践できるようになった。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自が目的と方法を見極め、自覚をもって計画的に仕事を進めていくことで、授業について話し合う時間を確保する。</li> <li>設定した時間だけではなく、日常的に、現状や課題を話しながら、取組の方向性を確認していく。</li> </ul>				

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。